

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900374		
法人名	ヒューマンライフケア 株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)		
所在地	京都府京都市伏見区日野谷寺町68		
自己評価作成日	令和3年4月6日	評価結果市町村受理日	令和3年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2690900374-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活を送るうえで、毎日散歩に出かけることでADLの低下を防いでおり、気分転換を図り季節を感じていただいている。また、コロナ禍でボランティアを呼ぶことができない等外部との関りをあまり持てない中、散歩に出かけることで、地域住民の方と挨拶を交わし、地域交流を持つことができています。毎食事の準備も職員だけで行うのではなく、利用者と盛り付けや調理等共同で行っている。他に洗濯物量みや食器洗い、床掃除等利用者が出来ることはないかを日々職員間で話し合い、利用者が出来ることを最大限行っていただいている。緊急事態宣言が出ていないときは買い物も少人数で行けるように工夫をしている。買い物をするのでの意識を持ってもらうことの継続を目指している。管理者と職員の距離はなく何かしたいことがあれば積極的に行える環境であり、利用者だけでなく職員間のコミュニケーションも大切にしている。法人全体でのマイスター制度があり、マイスターを取得したものが毎月拠点研修を行うことでスキルアップに繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念があり、拠点独自の理念を掲げケアをしている。開所当時の理念の為現在いる職員で話し合いをする機会が必要。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を行うことでの近隣との挨拶をしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関しての積極的な行動はしていないが、毎日の散歩から利用者の様子は知ってもらえることで、認知症のことは少しは知ってもらえているのではないかと。公園体操を駐車場で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度行い、地域包括と連携しZooMを利用しいろいろなイベントに参加できた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスで外出自粛期間になり、役所で桜の花に見立てていろいろなコメントを記入するという事に参加した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためにフロアのドアの施錠は中止した。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待検討会として法人として年間2回アンケートからカンファレンスを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を付けている人はいるが、職員が制度の研修をすることまでは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては家族に管理者からしっかりと話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から要望があったときは職員に周知をして統一することとしている。クレームがあれば運営推進会議で報告し、その後どうしているかを議事録に入れていく予定。(クレームに関しては現在なかった)		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人1人と比較的話をする機会が多い方だと思う。職員が行いたいことは積極的にしていると思われる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社独自のマイスター制度というものがあり、個人で受けたいとあれば受けれる制度がある。職員には個々で出来ることから毎日のケア以外でも担当を作り責任感を持って仕事をしてもらうようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修は現状出来ていないことがあるが、内部に関しても毎月行っている。新人研修としても毎月行った。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスで外部との接触が出来ていない状況。近隣に施設ができたことで見学から今後の交流できれば良いなど話をする機会は作った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で入られるときにケアマネージャと管理者でヒヤリングを行った。積極的にその利用者について話を聞き、初日も安心して入居できるように促した。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同様に家族と一緒に話をする機会が持てた。入居後に電話をしてどのように過ごされたかを報告したり、面会時に写真をみてもらったりした。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々なことができる利用者だったが大きな施設で出来ることが限られてしまったことで弊害があった為申し込まれ、施設で調理や長距離の散歩をすることをプランに入れた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活することでの職員が何でもするのではなく、利用者が出来ることはしてもらい、その考え方をしている。洗濯なども利用者がしていることが多い。役割としてされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスでも面会は1月に1回は来てもらうようにした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所に行くことは難しい。近隣に住まわれていた人が散歩中に知り合いに出会えたことはあった。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置もあるが1人になっていることはなく、レクリエーションと一緒に参加されている。歌を歌うことも利用者同士で音頭をとってされることもある		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前に退所された方が再度利用することになった。家族から相談されたことで入居の運びになった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時にしたいことや、本人に確認しながら支援している。休みたい時間なども居室に行かれたりしている。迷路を今日はしようかな？などの会話もみられている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年齢の少し若い人などは昼の休憩もしていなかったと言われることがあり、その人の今までの生活を尊重している。歌が好きだったと言われているので機会を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大きく1日の流れはあるが、朝食なども起きたくない人に無理起きてもらわず本人の時間で食事の提供をするなどの配慮がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議でカンファレンスを行うことでいろいろな意見がでてプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はプラン〇といった書き方をすることでプランについて考える、理解するようになっている。プランについても職員が把握できる機会を増やしている。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診に関しても施設と相談があり、家族ではなく施設職員が受診対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物にも利用者と一緒にいくことで周りの環境をみられている。花が好きな方は歩いて行ける花屋に行き買い物をされる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も以前行かれていた病院を継続的にいわれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師にも都度相談をし、受診するタイミングを相談している。バイタルサインについても相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折をされ手術をされたが病院との連携で2週間未満で退院して、施設でのリハビリを行うことにした。Drにもどのようにしていったら良いかを確認した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを契約する前に亡くなれることがあったが、最大限施設で過ごしていただけるように職員同士でも話し合いを何度も行った。主治医とも往診ごとにしっかりと話し合いを行ったことを職員に周知した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応などについても会議で話し合いはしている。感染症についての研修は行ったが事故対応は出来ていない。2年前に救急対応の研修は行ったが、職員も何名か変わっているため再度研修が必要。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間で2回避難訓練を行っている。1度は消防署付き添いで訓練を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を付けているが、課題も無くはない。人権の研修でも取り扱っている。言葉使いに関しても注意する場面を作っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけに関しても強制ではなく相手の思いを聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは大まかにはあるが、したいことがあればしてもらっている。何かをしなければならないというのは決めていない。買い物に行きたいと言われることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選ばれて着られている人もいる。指輪されたりして過ごされている。出来ない人に関しては季節を考慮した服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、食事レクとしてお好み焼きを作ったり、季節の鍋をしたりした。外食が出来ないため出前をすることもある。食事の盛り付けは利用者がされることもあり、片付けなども役割をもってされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事を毎日確認している。食べられなくなった利用者には医師と相談して食べられるようになった。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしっかりと行っている。歯医者からの指導も伝えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレに行くようにしている。体調で起きれなくなった人にもトイレを促すことでトイレに行けるようになった。立ち上がりが出る限りトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が固いと言われたり出ないときにはホットパックを使用したりしている。医師に相談したり、水分を飲んでもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には3日に1回入浴をしてもらっている。希望があれば入れる体制にはなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみて休まれたり、昼間にしっかりと体を動かす機会を作り、夜間ゆっくり眠られるように、規則正しい生活を目指しての支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時飲んでいるかの確認をしっかりとしている。薬が変更になったり追加するときは申し送りで伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや、誕生日にはお楽しみメニューを選んでもらったりしている。歌レクの進行を任せたりすることで人生の生きがいになっている。好きなおやつ雑誌を買ってこれ作ったこともある。		

ヒューマンライフケア伏見グループホーム(3F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を提供するようにしている。近所での花が咲くと見に行ったりしている。近隣との関係も出来てきており挨拶から世間話をしてくれるようになってきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の管理は職員が行っているが2人利用者は自分で管理されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話というのはおられないためかけることはしていないが、希望があれば出来る。1名携帯を所持されており自分で家族にかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは整理整頓が行き届いており整理されている。季節の壁紙や書道の展示、ご自身の作品を貼ったりしている。季節ごとのイベントを写真に出し飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置はしているが、ソファーやいろいろな場所に移られて話をされることはある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらうように話をしている。その人ごとに家具をおかれており、自分の部屋の認識をもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩くときにつまずかないようなテーブルの配置をしている。自分で動かれても大丈夫になっている。居室の前に名前を記載し、自分の部屋だとわかってもらえるようにしている。作品を貼っているのもその一つ。		